



令和5年9月25日 発行



フェーズフリーな防災を考える

北海道室蘭養護学校長 星野 健史

本校も一日防災教室に取り組んで2年目となります。昨年度は、学級単位で防災について学習する日として、「防犯かるた」や「段ボールベット」をお借りしました。今年は、室蘭市総務部防災対策課から危機管理専門員を3名派遣いただき、体育館で高等部、小・中学部の2回に分け、災害になったらどんな状況になるかを体験を通じて学びました。コロナで参集することができませんでしたが、今年は体育館いっぱいに段ボールベットを組み立てて実際の避難所のような空間をつくり、作った段ボールベットに乗ってみたり、寝てみたりする経験をしました。小学生にとっては、段ボールを使った箱作りで図工の学習のように楽しく、中高生にとっては、作業学習のように分担しながら段ボールを組み立てたり、片づけたり自分のできることでみんなの役に立つことが分かりました。普段から非常時の環境に楽しく慣れる体験をしておくことで見通しがもて、いざというときにも利用できるようになるのではないのでしょうか。

最近は大雨、大雪、洪水、台風、地震、津波、土砂崩れ、竜巻、猛暑日が続くなど、自然災害が多くなっています。これまでは、いざというときに備えて食料の備蓄や避難訓練を実施してきましたが、これだけいろいろな災害が続くと、日常と災害のような非日常を区別して備えるのではなく、「いつもと、もしもを、もっとフリーに」する「フェーズフリー 備えない防災」が注目されています。一般社団法人フェーズフリー教会のHPから少し考え方を紹介します。

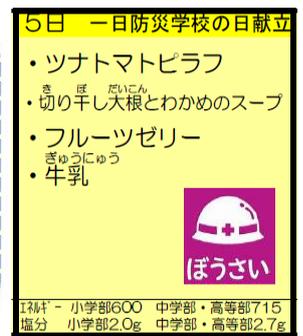
(<https://phasefree.or.jp/phasefree.html>より引用)

「備える」ことは難しい。でも大切な人を、絶対に守りたい。世界でも有数の災害大国である日本。防災意識は高まっていますが、現在も災害は繰り返されます。「何をどのくらい備えればいいのか?」「防災って難しい・・・」という声も、いまだ多く聞かれます。「大切な人を、絶対に守りたい」この想いを形にするため、『フェーズフリー』は生まれました。

身のまわりにあるモノやサービスを、日常時はもちろん、非常時にも役立つようにデザインしようという考え方、それが『フェーズフリー』です。

防災用品のほとんどは、ふだんはしまっていて、非常時のみに取り出して使うものです。フェーズフリー品はちがいます。

フェーズフリー品は日常時のいつもの生活で便利に活用できるのはもちろん、非常時のもしもの際にも役立つ商品・サービス・アイデアです。



本校では、一日防災学校の日为学校給食メニューを、備蓄しておける食材を使った献立にしてみました。

今後は、フェーズフリーの考え方を学習にも取り入れてみたいと考えています。みなさんなら、どのようなアイデアを思いつきますか？

第二回学校運営協議会を開催

9月5日(火)10:00から、3名の委員の方々(2名欠席)にお集まりいただきました。

当日は『地域に開かれた学習活動について』『令和5年度学校評価について』の説明・協議、小学部・中学部の防災学校の授業視察を行いました。概要等は以下のとおりです。

今回も、多くの貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見は教職員へ還元し、よりよい学びにつながるよう進めて参ります。

協議内容・ご意見

- 調理実習のできる場所と講師の人材について
 - ・伊達の食育センターは給食を作っているところと併設されているので、受け入れをしているのではないかと聞いてみるとよい。
 - ・室蘭では『きらん』に調理をするスペースがある。結構広く、調理器具もそろっている。
 - ・調理の専門学校(北斗文化学園インターナショナル調理技術専門学校)に講師を頼めるかもしれない。フランスから来ている学生もいるので、外国の食文化に触れるという意味でも、何らかの活用ができるかもしれない。
- 北海電工建設時に出た木(柏)の丸太活用から
 - ・養護学校で活用してもらうためにとってあるので、優先的に好きなだけ使ってほしい。
 - ・アウトドアの体験が災害時に生きてくるのではないかと。例えば、災害時に火を焚くというような経験など。もっと自然の中での体験ができればよい。
 - ・なかなか子どもを連れてのキャンプや屋外での活動はしにくい状況もある。
 - ・だんパラのキャンプ場には遊具等もあり、活用しやすくなっている。

○ 障害者スポーツの紹介

・小林委員から「卓球バレー」の紹介と講師を引き受けることもできるとのお話をいただきました。

(一チーム6人で卓球台使用。車いすの人でもでき、ラケットとボールは特別なものがある。ネットの下を打ち合う。)

一日防災学校

室蘭市総務部防災対策課から、講師として職員3名の方々に来校いただきました。災害時における避難について紙芝居での説明を受けたり、段ボールベッドの組み立てをして横になってみる体験をしたりして、災害時の身の守り方を知り、防災意識を高めることができました。

授業を視察した各委員の感想をご紹介します。

■ 石川委員 ・自閉症の子どもは初めてのことを拒否することが多いので、このような体験が大事であると思う。

・家庭でできないことなので、ありがたい。

■ 小林委員 ・仲間と協力してベッドの組み立てによく取り組んでいた。

・先生方の頑張りが学校を支えている。

・できないことに目がいきがちだが、ぜひ、うまくできたことに目を向けてほめてほしい。

■ 鈴木委員 ・外部の講師を呼んで授業にアクセントがあったのがよい。そのような環境が大事ではないか。

・はじめは難しいかもしれないが、やれば、スムーズになってくる。

・日常的に危機管理体制や訓練はチェックする必要がある。



これらのご意見のほか、鈴木委員からは、ニュース等でも取り上げられている『教員の働き方』について、業務を一人で抱えない、準備を早くする、人に頼むなどして、取り組めばよいのではないかなどのご助言をいただきました。校長からは、本校職員の超過勤務の実態や、現在と今後考えている対策等について説明をし、委員の皆様にご覧いただくことができました。

次回は2月に開催し、学校評価の結果と次年度の学校運営について、委員の皆様にご協議していただく予定となっています。